

IAUD Newsletter vol.13 第 12 号(2021 年 3 月号)

1. 第 8 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2021 in ザ・クラウド開催報告……………1
2. IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介②……………7
3. オンライン第 2 回 UD 検定・中級開催のご案内……………11
4. IAUD 3 月の予定……………11



新型コロナウイルス感染防止のためのデザインを考える 第 8 回国際 UD 会議 2021 in ザ・クラウド開催報告



「第 8 回国際 UD 会議 2021 in ザ・クラウド」開会式でメッセージを述べられる菅内閣総理大臣

IAUD は新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、2 月 26 日(金)と 27 日(土)の 2 日間、「第 8 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2021 in ザ・クラウド」を開催し、世界 25 の国と地域から延べ約 660 人の参加を得て、大変盛況のうちに終了いたしました。

初のオンライン開催となった今回は、2021 年秋に開催予定の「第 9 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2021 in ドバイ(仮)」に至る前哨戦として、今後複数回実施するオンライン国際会議の第 1 回目です。

今回のテーマは「新型コロナウイルス感染防止のためのデザイン」。国内外の専門家による講演やパネルディスカッションを通して、最新の感染防止対策に関する様々な研究成果が披露され、科学的根拠に基づいた対処法を確立するためのデザインを考察しました。

そして、多数の方々とは知識を共有することができ、UD をより多くの人に理解していただく大変よい機会にもなりました。

今号の Newsletter では、会期 2 日間の開催概要を報告します。

※「第 8 回国際 UD 会議 2021 in ザ・クラウド」開催速報は[こちら](#)をご覧ください。



2021年2月26日(金曜日)

今回は新型コロナウイルス対策のため、初めてZoomによるオンラインで開催し、参加登録費は無料としました。

未だ世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染という大変関心の高いテーマとなったため、英国、デンマーク、ドイツ、ヨルダン、インド、タイ、メキシコ、オーストラリアなど世界 25 の国と地域から IAUD 会員をはじめ技術者やデザイナー、学生、メディア関係者など延べ約 660 人が参加されました。

初日には、開会式と2つの基調講演、パネルディスカッションが行われました。

会期中の情報保障としては、全プログラムに日英の同時通訳を配信し、参加者は日本語と英語の音声を選択できるようにしました。さらに、日本語の手話通訳と要約筆記も配信し、画面上に表示されました。



画面上の手話通訳と要約筆記

■開会式

まずは古瀬 敏実行委員会委員長(IAUD 理事長／静岡文化芸術大学名誉教授)より開会の辞がありました。

古瀬委員長は、「現時点でわかっている知恵をオンラインで共有できれば。オンラインで可能なことを少しずつやりながら、今後のアイデアも見つめながら続けたい」と述べました。

続いて、古賀 尚文組織委員会会長(共同ピーアール株式会社社長)から主催者を代表して挨拶がありました。

古賀会長は、「UD の基本理念である『多様性の包摂』は『誰一人取り残さない』という持続可能な開発目標(SDGs)の原則とも一致している。これ以上感染させないためにUDからアプローチできることを考え、実現化を推進することが国際会議の使命」としました。

さらに、来賓のご挨拶として、菅 義偉内閣総理大臣からのビデオメッセージが放映されました。菅内閣総理大臣は、「科学的な知見とUDを融合させることで、感染防止にもつながるものづくり、まちづくりを進めていくことは非常に意義深い取り組み。参加者の皆様が有意義な意見交換を行い、その成果が感染終息に向けた大きな一歩となるよう、心から期待している」と述べられ、大変励みとなるお言葉を頂戴しました。

最後に、司会進行の川原 啓嗣実行委員会副委員長(IAUD 専務理事／名古屋学芸大学教授)による閉会の辞をもって開会式が終了しました。

川原副委員長は、「有意義な知見の共有が行われ、問題解決に向けた提案に結びつけられれば幸い。それが、世界中の全ての人々の健康と生命を守ることに繋がれば」と話しました。



左から古瀬委員長、古賀会長、菅内閣総理大臣、川原副委員長

■公開シンポジウム

今回のテーマ「新型コロナウイルス感染防止のためのデザイン」に関して、国内外の招聘講師による2つの基調講演及びパネルディスカッションが行われました。

◆基調講演 1: 様々な感染症に対応可能な工学的感染制御技術の活用

秋吉 優史(大阪府立大学研究推進機構放射線研究センター／
工学研究科量子放射線系専攻准教授)



秋吉教授

一般的に行われている新型コロナウイルス対策に加え、さらに必要な工学的対抗策の提示として、紫外線照射や光触媒の殺菌・抗菌作用に関して、実験データを基に具体的な説明がありました。

さらに、それぞれの取り扱い上の注意点についても述べられました。

◆基調講演 2: 222nm 紫外線のコロナウイルス不活化効果と安全性について

五十嵐 龍志(ウシオ電機株式会社事業統括本部インキュベーションセンターCARE 222nm
プロジェクト最高顧問: 日本)

錦織 千佳子(神戸大学大学院医学研究科教授: 日本)

まずは 222nm 紫外線を開発している五十嵐氏から、その開発経緯、そして新型コロナウイルスなどウィルス・バクテリアへの殺菌感度も高いことなどが説明されました。また、現在での使用ガイドラインの紹介もありました。



五十嵐氏と錦織教授

続いて、皮膚科学専門の錦織教授からは、222nm 紫外線の安全性について、繰り返し人体に照射しても発癌しなかったという実験結果の説明が詳細なデータを基にありました。

◆パネルディスカッション: パンデミック vs ユニヴァーサルデザイン

パネリスト:

フランセスク・アラガイ(デザインフォーオール財団代表/IAUD 評議員: スペイン)

ラーマ・ギーラオ(王立芸術大学院ヘレンハムリンセンター所長/IAUD 評議員: 英国)

荒井 利春(金沢美術工芸大学名誉教授: 日本)

オンニ・エイクハウグ(EIDD デザインフォーオール・ヨーロッパ会長/IAUD 評議員: ノルウェー)

ヴァレリー・フレッチャー(人間中心デザイン研究所所長/IAUD 評議員: 米国)

益田 文和(株式会社オープンハウス代表取締役/名古屋学芸大学客員教授: 日本)

司会進行: 山中 敏正(筑波大学教授/IAUD 評議員: 日本)



左よりパネリストのアラガイ氏、ギーラオ氏、荒井氏、エイクハウグ氏、フレッチャー氏、益田氏

世界 5 か国から UD の有識者 6 名をお迎えし、今回のテーマ「新型コロナウイルス感染防止のためのデザイン」に関する意見や感想を伺うとともに、基調講演で提示された内容を広げ、スペイン、英国、ノルウェー、米国、日本での現状やパンデミック対応事例などが紹介されました。

「ニューノーマル」や「ポストコロナ」に向け、対処法やワクチン接種、保管や輸送法などに対し、UD が社会に貢献できることについて熱心な議論が行われ、参加者からも意見が寄せられました。

翌日からの各セッションやワークショップの参加者の意識を高めることができました。



司会進行の山中氏



2021 年 2 月 27 日(土曜日)

2 日目は国内から専門家をお迎えし、5 つのレクチャーセッション及びパネルディスカッションが行われました。さらに、2 週間にわたるオンライン UD ワークショップがスタートしました。

■レクチャーセッション

科学的所見を活用した新型コロナウイルス感染防止に関して、国内の専門家 5 名による専門的・技術的な知識に関するレクチャーセッションが行われました。

◆新型コロナウイルス感染防止のためのデザイン 1

紫外線殺菌ライトの効用と使用上の注意点

松尾 浩一(岩崎電気株式会社光・環境事業部光デバイス部部长)

積極的に新型コロナウイルス感染防止対応製品の紫外線ランプを開発している同社の松尾氏より、紫外線殺菌の特徴や人体への影響、さらに新型コロナウイルスへの不活化の有効性について具体的な説明がありました。

また、紫外線殺菌装置の紹介や使用上の注意点も述べられました。



◆新型コロナウイルス感染防止のためのデザイン 2

222nm 紫外線の特徴と製品化について

村上 知美(ウシオ電機株式会社事業統括本部光源事業部第 5 営業部課長補)

初日の基調講演 2 に続き、222nm 紫外線について不活化・殺菌メカニズムや人体への影響について説明がありました。

さらに、同社が開発した、有害波長を取り除き人体に無害な 222nm 紫外線を放射する技術「Care222」に関し、新型コロナウイルスへの不活化効果に対する検証結果や、病院やホテル、企業オフィスなどでの導入事例について紹介されました。



◆新型コロナウイルス感染防止のためのデザイン 3
光触媒の抗菌効果と製品への応用
宮内 雅浩(東京工業大学物質理工学院教授)

光触媒の具体的な説明や、持続的な抗菌・抗ウイルス効果、さらに新型コロナウイルス感染対策への有効性について、実験データを基に具体的な説明がありました。

また、空気清浄機やタイルなど光触媒製品を導入した実証結果を述べ、病院やモールなど様々な施設への適用も提案されました。



◆新型コロナウイルス感染防止のためのデザイン 4
抗菌・抗ウイルス効果を持つリン酸チタニウム化合物の無光触媒作用によるコーティングの実用事例について
吉川 昌孝(株式会社コスモ技研代表取締役)

無光触媒リン酸チタニウム化合物 SKYBE783 をコーティングすることで得られる抗菌・抗ウイルス効果について、実験データを基に説明がありました。

さらに、病院や老人ホーム、交通機関、ホテル、映画館などでの実用事例についても紹介されました。



◆新型コロナウイルス感染防止のためのデザイン 5
銅の抗菌効果と製品への応用
小澤 隆(一般社団法人日本銅センター技術開発部長)

銅の優れた抗菌・抗ウイルス性能や新型コロナウイルスに対する銅の効果について説明されました。

さらに、階段の手すりやドアハンドル、筆記用具など実際に利用されている銅の抗菌・抗ウイルス性能を活かした製品の紹介もありました。



■クロージングセッション

◆パネルディスカッション: パンデミック終息と持続可能な社会の発展に向けて

パネリスト: 荒井 利春(金沢美術工芸大学名誉教授)

益田 文和(株式会社オープンハウス代表取締役/名古屋学芸大学客員教授)

大島 誠(名古屋学芸大学客員教授/IAUD 理事)

久保 雅義(京都工芸繊維大学名誉教授/IAUD 理事)

相良 二郎(神戸芸術工科大学教授/IAUD 理事)

古瀬 敏(静岡文化芸術大学名誉教授/IAUD 理事長)

司会進行: 川原 啓嗣(名古屋学芸大学教授/IAUD 専務理事)



左からパネリストの荒井氏、益田氏、大島氏、久保氏、相良氏、古瀬理事長

2日間のプログラムの総括として、国内のUD専門家5名をパネリストにお迎えし、会議テーマ「新型コロナウイルス感染防止のためのデザイン」及びセッションテーマ「パンデミック終息と持続可能な社会の発展に向けて」について感想や意見が述べられたほか、我々がすべきことやUDからアプローチできることについて、活発な意見交換がなされました。また、この後に開始する「UDワークショップ」へのアドバイスや要望なども提示されました。

参加者からも質問や意見が寄せられ、国際会議の締めくくりにあつさわしい大変充実した議論が行われました



司会進行の
川原専務理事

◆UDワークショップキックオフ

ファシリテーター：大島 誠(名古屋学芸大学客員教授/IAUD 理事)
久保 雅義(京都工芸繊維大学名誉教授/IAUD 理事)
相良 二郎(神戸芸術工科大学教授/IAUD 理事)

2月27日(土)から3月13日(土)まで、オンラインUDワークショップ「疫病退散!!」を実施します。

これは、IAUDが長年実施してきた「48時間デザインマラソン」のノウハウを活かし、会議テーマ「新型コロナウイルス感染防止のためのデザイン」に沿い、デザイン提案を行い発表します。

UDの有識者であるIAUD理事3名がファシリテーターとなり、世界5か国から約30人の参加者が3グループに分かれ、メールやZoomミーティングでやりとりしながら2週間にわたりリモートで作業します。優れた提案にはクラウドファンディングによる資金調達を実施し、プロトタイプ製作、ユーザビリティ評価を通して実現を目指します。



ファシリテーターの大島氏、久保氏、相良氏

初日はファシリテーターである大島氏、久保氏、相良氏からワークショップの方針や進め方について説明がありました。

※UDワークショップ開催報告は今後のNewsletterでお伝えします。

2日間にわたる国際会議は、最後に川原啓嗣専務理事の閉会の辞をもって閉幕しました。

日本全国及び海外から多くの方の参加を得ながら、お陰様で初めてのオンラインでの国際会議を無事に終了できました。

登壇者の皆様には、この時期に大変関心の高い、科学的所見を活用した感染防止対策へのイノベーションデザインについてわかりやすく素晴らしい講演をしていただき、非常に充実した内容になりました。

参加者からも、「とても貴重で興味深い話を聞くことができた」「科学的、刺激かつ有意義な内容だった」など、大変良い評価をいただきました。

IAUDは今回の国際会議で得た知識や成果、課題など会議の総括をしっかりと行い、次のステップに繋がりたいと考えています。

そして、思いを同じくする世界中の人々の知見と叡智を結集し世界へ発信することで、パンデミックの一刻も早い終息と安心・安全な社会の復活を目指します。



会期中は熱心な意見交換が行われた



革新的な UD 活動を国際的に表彰 IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介②

IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介の第 2 回目は、金賞を受賞した NOSIGNER(日本)の「PANDAID(パンドエイド)」です。

ロジャー・コールマン審査委員長(英国王立芸術大学院名誉教授)は「PANDAID」について、「誰もがパンデミックに対応するために利用できる、共同多国籍ボランティアのウェブサイト。集合知の概念を巧みにデザインムーブメントに展開し、ユニークで効果的で思いやりのある情報を伝えている」と評価しました。

今号の Newsletter では「PANDAID」の取り組みについて、NOSIGNER 代表の太刀川英輔氏に紹介していただきます。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞紹介①は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 プレゼンテーション／表彰式開催速報は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 プレゼンテーション／表彰式開催報告は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 受賞結果は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2020 審査講評は[こちら](#)をご覧ください。



オンライン開催された表彰式での「PANDAID」プレゼンテーションの様子



パンデミックから身をまもる共同編集ウェブサイト

共創デザイン部門金賞：PANDAID
NOSIGNER (日本)



世界中で考えられた知恵をまとめる共同編集ウェブサイト「PANDAID」

新たなパンデミック発生

2019年12月に中国・武漢で最初の症例が確認された新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、瞬く間に世界中に広がり、人類史上有数のパンデミックを引き起こしました。

COVID-19は時に重症化し、死に至る恐ろしい感染症であると同時に、無症状感染者も少なく、本人も知らぬ間に感染が広がってしまうことが大きな特徴です。この目に見えない感染症の恐怖はすでにいくつかの国を窮地に追い込んでいますが、これからの自分たちの行動次第で、その拡大を最小限に抑えることが可能です。

いまこそ私たちが持つクリエイティビティやデザインという知恵を最大限に活用し、悲しい思いをする人を一人でも減らすことが求められていました。

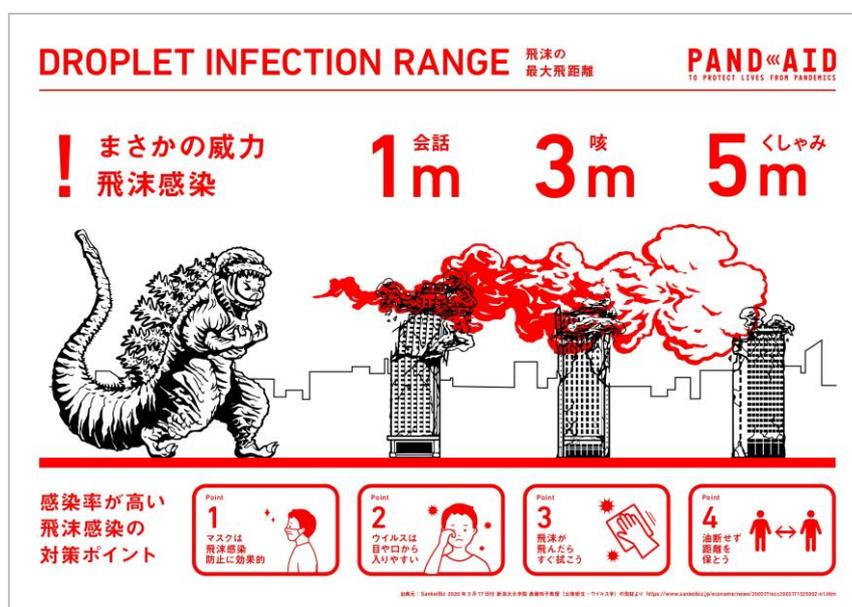
パンデミックから命をまもるウェブサイト「PANDAID」発足

2020年4月、NOSIGNERの太刀川英輔が発起人となり、パンデミックから命をまもるために世界中で考えられた暮らしや習慣の変化を助ける知恵をまとめる共同編集ウェブサイト「PANDAID」を立ち上げました。

2011年の東日本大震災の直後、太刀川が立ち上げたWikiサイト「OLIVE」と同様に、有志が共同編集するこのサイトには医師や編集者など100名以上のボランティアが参加し、それぞれが専門性を発揮しています。非営利で自主運営しており、どなたでも編集に参加できます。

編集において重視しているのは、「科学的ファクトが示されている情報」「科学的情報をわかりやすく伝えるデザイン」「自分自身で実践できるコンテンツ」であること。この編集方針に基づき、感染症の基礎知識から予防法、体力の維持やリモートワークのノウハウ、自宅での過ごし方、助成金情報までさまざまな情報が集められています。

さらに、必要に応じてインフォグラフィックやポスターなどを独自に制作し、一般の人たちが直感的に理解しやすいコンテンツを発信し続けています。



飛沫の最大飛距離を視覚的にわかりやすく説明した画像

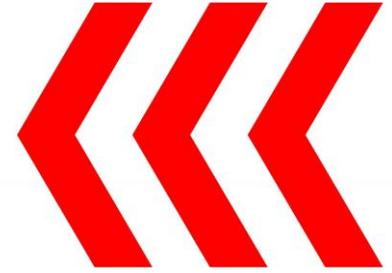
PANDAID デザインに込められた願い

道路標識を思わせるアイデンティティには、パンデミックに対して「止まれ」「戻れ」という願いが込められています。

同時に、その実現には人々の結束が欠かせないことを3本の矢になぞらえて示しました。

PAND«AID
TO PROTECT LIVES FROM PANDEMICS

パンデミックから
命をまもるために



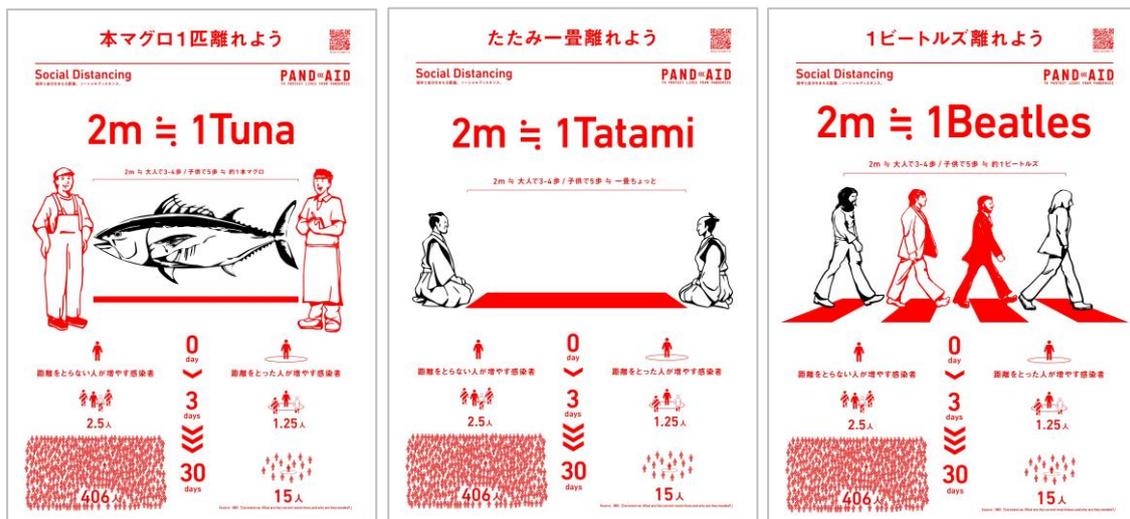
PANDAID ウェブサイトを開いた一番最初に表示されるバナー

PANDAID から派生した作品

有志の運営メンバーたちによって日々更新されている PANDAID は、新型コロナウイルス関連の情報が日本で最も整理されたサイトのひとつとなっています。

また、ソーシャルディスタンスの重要性を伝えるために制作したポスターは、SNS 上で世界各国でシェアされ続けています。

同ポスターを国連も発信するなど、デザインの力を活用した感染症対策のムーブメントも生まれています。(同ポスターは PANDAID ウェブサイトから無料でダウンロード可能)



ソーシャルディスタンスの重要性をユーモラスに表現したポスター

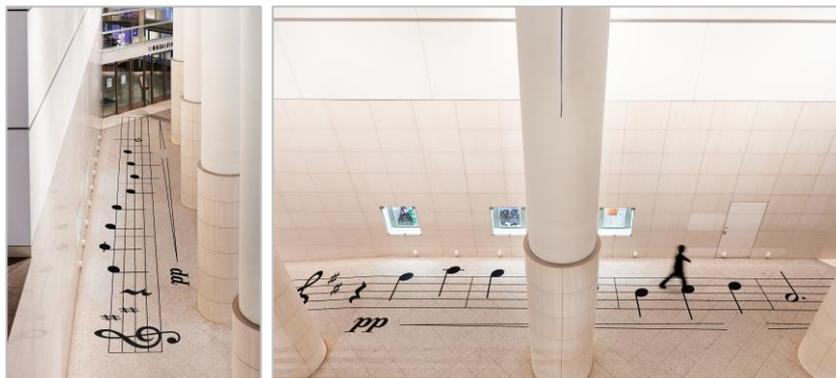
さらに、ソーシャルディスタンスを楽しく変換するサイネージ(標識)も開発しました。LIFECOIN STICKER は有名ゲームを題材にした床張りステッカーで、ソーシャルディスタンスを楽しみながら守ることができます。



ソーシャルディスタンスを楽しいものへと変換するサイネージ LIFECOIN STICKER

第二弾の SOCIAL HARMONY は、床に大きな楽譜を描き、音符の上に立つことでソーシャルディスタンスを楽しく守れるプロジェクトです。

音符の上に立つとその音が鳴るため、一定の距離を保つことでひとつの曲を奏でられるようになっています。



一定の距離間で配置された床の音符を踏むと音楽が奏でられる SOCIAL HARMONY

飛沫対策に役立つ PANDAID FACESHIELD も制作しました。これは、A4 クリアファイルを使って簡単に作れる、とても安価かつ安全で快適なフェイスシールドです。

型紙をクリアファイルに入れ、線に沿ってハサミでカットするだけで、およそ 30 秒で完成します。(型紙は PANDAID ウェブサイトから無料でダウンロード可能)

また、個人のプライバシーを保護する目的で、素顔がわからないよう加工した IDENTITY FACESHIELD も新たに開発しました。



医療機関でも使用されている PANDAID FACESHIELD。A4 クリアファイルから簡単に作れる。(左・中央写真)
香港のデザインイベント「deTour」で展示された IDENTITY FACESHIELD。(右写真)

PANDAID のこれから

PANDAID は現在、日本語、英語、中国語(簡体字と繁体字)、フランス語、スペイン語の世界 5 力国語で展開しており、今後はより多くの言語に対応していく予定です。

PANDAID を「正しく・楽しい＝興味深い」感染症対策のウェブサイトにすることで、パンデミックの収束に貢献することを目標としています。

人類史上最大級の試練を乗り越え、大切な人たちとまた向かい合うことができる日に、私たちが生きる世界がより良いものになっていることを信じて、これからもこのウェブサイトを育てていきます。

※PANDAID 公式サイトは[こちら](#)からご覧ください。



自宅やオフィスからいつでも UD 資格取得 オンライン第 2 回 UD 検定・中級開催のご案内

IAUD は「オンライン第 2 回 UD 検定・中級」を実施します。

「オンライン UD 検定・中級」では、力試し問題と UD 検定・中級試験 (70 分・130 問) を受けていただきます。

試験問題は、公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」(A4 判 263 ページ) に準拠して出題されます。受験される方は、事前に公式テキストブックをご購入し、ご自身で学習された後に検定試験をお受けください。

検定試験前に、学習状況の把握や本試験の回答方法の事前確認に役立つ力試し問題を配信いたします。力試し問題と検定試験は、実施期間中であれば時間・場所を問わず受けることができます。

合否は検定試験終了後すぐに判定されます。合格基準は総合得点 70% 以上で、合格者には「UD 検定・中級 認定証」を発行します。

申し込み受付は 4 月 13 日(火)までです。UD 検定・中級は UD に興味のある方ならどなたでも、UD 検定・初級資格認定者でなくても受験できます。この機会に是非ご利用ください。

※「オンライン第 2 回 UD 検定・中級」申込みは[こちら](#)をご覧ください。

※公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」ご購入は[こちら](#)をご覧ください。



中級受験に必須の
公式テキストブック



2021 年 3 月の予定

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6 10:00~ UD2021 UD ワークショップ 中間レビュー オンライン会合	7
8	9	10 10:00~ 研究部会 2019 & 2020 年度 成果報告会 オンライン開催	11 14:50~ 衣の UDPJ オンライン会合	12	13 10:00~ UD2021 UD ワークショップ 最終レビュー オンライン会合	14
15	16	17	18	19	20 春分の日	21
22	23	24	25	26	27	28

次号は 4 月上旬発行予定

特集: 研究部会 2019 年度及び 2020 年度成果報告会ほか

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会

事務局: 〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110

電話: 045-901-8420 FAX: 045-901-8417 e-mail: info@iaud.net